

10. 古英語から中英語への 文法変化

要点

- 古英語と中英語以降の英語の文法的な違いは？
- どのように文法が変化したか？
- なぜ文法が変化したか？

現代英語の 5 特徴

- +1. () Vocabulary #151,
#152, #153
- +2. () Simplicity
- +3. Natural ()
- 4. () Gap
- 5. () Expressions

古英語の 5 特徴

1. () Vocabulary
2. () Inflection
3. () Gender
4. Spelling-Pronunciation ()
5. () and ()
Words

英語史の時代区分

OE	() English	449–1100
ME	() E.	1100–1500
ModE	() E.	1500–1900
PDE	() E.	1900–

英語史における Inflection の変遷

- OE: Full Inflection
- ME: () Inflection
- ModE: () Inflection

英語史における Gender の変遷

- OE: Grammatical Gender
- ME: Grammatical/() Gender
- ModE: () Gender

大形態変化

- 古英語から中英語にかけて（ ）と（ ）が衰退し，
- 英語の形態論（ ）が再編成され，
- 現代英語の文法の基礎がつけられた．
- これを（ ）（GMS）と名付ける（by 堀田）．

GMS の When and Where

() 世紀 ~ () 世紀を中心とする古英語から
中英語への過渡期に

- () 方言：早く急速に
- () 方言：遅く緩慢に

#130

古英語では屈折ゆえに（ ）が 自由

- *se hlāford* lufaþ *þā hlæfdigan*
- *þā hlæfdigan* lufaþ *se hlāford*
- *se hlāford þā hlæfdigan* lufaþ

古英語では屈折ゆえに () が 必須でない

- *Gode ælmihtegum sie þonc*
(*to God* almighty be thank)
= Thanks be Almighty *to God*
- *se wer is wisdomes full*
(the man is *wisdom's* full)
= the man is full *of wisdom*

古英語では () が健在

- 性の付与は原則としてランダムだが、一部、語尾による見分け方あり
- 決定詞や代名詞の呼応あり．#154, #155
 - *se mōn***a** “()” (= *hē*)
 - *sēo sunn***e** “()” (= *hēo*)
 - *þæt wīf* “()” (= *hit*)

古英語は（ ）語尾が命の言語

古英語は，語と語の関係を示す（ ）や名詞の所属を示す（ ）などの多様な文法情報を（ ）語尾に詰め込む（ ）的な（ ）言語だった．そのため，文法関係を示すのに（ ）や（ ）は副次的な役割しか果たさなかった．

屈折語尾の ()

- *se*, *pā*, *sēo*, *pone* などの決定詞はすべて () へ .
- *hlæfdig**an* (対格) や *hlæfdig**e* (主格) の区別は消失し , いずれも () へ .
- その結果 . . .

- 文法関係を示す第一の手段としての
（ ）が機能しなくなった．
- 文法関係を示す第二の手段だった
（ ）と（ ）が第一の手段へ．

() に依存する言語へ

- the lord loueth the lady
- the lady loueth the lord

() に依存する言語へ

- *Gode* ælmihtegum sie þonc
→ Thanks be *to God* Almighty
- se wer is *wisdomes* full
→ the man is full *of wisdom*

() 性から () 性へ

- 屈折語尾は () を標示する機能も担っていたので ,
- 屈折語尾が水平化するとそれも廃れた .
- 結果として , () 性へ移行した .
- PDE: “the moon” (= *it*), “the sun” (= *it*), “the woman” (= *she*) #28

語尾の水平化はなぜ起こったか (1)

- ゲルマン語では () にアクセントが来るのが原則
- 一方, () のアクセントは常に弱く, 水平化・消失されやすい
- 格や性の屈折は () で標示されたので
- ゲルマン語では, 格や性が常に機能不全になる恐れがある

ゲルマン語の 6 特徴 #182

1. First Germanic Consonant Shift:
() Law and () Law
2. () の強変化と弱変化
3. () の強変化と弱変化
4. 時制は () と () のみ
5. 過去・過去分詞に ()
6. 第一音節にアクセント

語尾の水平化はなぜ起こったか (2)

- しかし，語頭アクセントという（ ）的な要因だけでは説明できない．
- 例えばゲルマン語の一つである（ ）はいまだ豊富な格と性を保持している．

#154

- では，英語に特有の（ ）的な要因とは？
- 古英語後期の（ ）語との接触！

語尾の水平化はなぜ起こったか (3)

- () 語と英語の主な違いは、
() 語尾にあった
- 語尾さえ切り落とせば、語根はほぼ
同じため、意思伝達が容易だった。
- 両言語の話者はすすんで語尾を切り
落とした。

まとめ (1) : GMS の How and Why

- How: 屈折語尾の ()
- Why:
 - － () 語特有の第一音節アクセントの裏返しとしての語尾の弱化
 - － () 語との接触を通じての屈折語尾の切り落とし

まとめ (2) : 総合 () から 分析 () へ

中英語は、屈折語尾の () により、
格や性を () 語尾によって示す総合的
() な言語の性質を失い、() や
() を重視する分析的 () な言
語へと移行した。() 性も () 性へ
と移行した。